

# 発見! 全国のほっとポイント

## 糖尿病センター設立で 地域医療の拠点をめざす

福岡県  
大牟田市

### PROFILE

福岡県済生会大牟田病院  
内分泌糖尿病内科医長

### 岩屋智加予先生

いわや・ちかよ 2010年福岡大学医学部卒業。12年同大学医学部内分泌・糖尿病内科入局。13年村上華林堂病院、14年福岡大学大学院医学研究科、18年牟田病院内分泌・糖尿病内科医長を経て、20年から現職。日本糖尿病学会専門医。日本内分泌学会専門医。日本内科学会総合内科専門医。医学博士。



### 高齢化進む「炭鉱の町」の 中核病院として

済生会大牟田病院は、福岡県最南部の大牟田・有明地域の中心核病院として90年近くにわたって地域医療に貢献しています。同院の内分泌糖尿病内科には、昨年着任した岩屋智加予先生は、患者さんについて、「この地域はかつての炭鉱の町というところもあつてか、過剰な飲酒

など生活習慣に問題を抱える方が少なくありません。糖尿病患者の人口比率も福岡県内でも上位にあり、治療が後手に回って重症化している方も多「いす」と話します。三井三池炭鉱が最盛期だった1970〜80年代に従事していた層がいま、高齢期を迎え糖尿病患者の増大につながっているとの指摘です。

「糖尿病は早期発見、早期治療が鍵ですが、重症化してから紹介いただくことも多いのが実情。予防に勝る治療はありません。患者さんと同じ方向性をもって早期から実現可能な治療を一緒に考え継続していくこと。それには病識・正しい知識をもつことから始まります」。

### 啓発活動の強化と 啓発連携推進を目標に

そのため着任以来、啓発活動に力を入れていきます。昨年12月に季刊で立ち上げた『糖尿病通信』やWebセミナーなどを通じて正しい療養指導の周知、及び糖尿病専門医でなくても正確な知識で治療や療養指導ができるよう図ります。昨年11月

の「世界糖尿病デー」には、病院の正面玄関を1週間にわたりにシンボルカラーのブルーにライトアップ、同時に血糖測定や医療相談、ポスター掲示なども行い話題となりました。「とにかく様々な方法で発信し、まずは糖尿病について正しく知ってもらうことが先決です」。

今年目標は地域医療連携、特に病診連携の推進とのこと。今秋をめどに病院敷地内に「糖尿病センター」が開設される予定で、「大牟田市では初の施設となりますが、これを地域の先生方と共にしっかり機能させていきたい。当院の特徴でもあるフットケア外来や栄養指導などもここにもとめ、地域の診療拠点にします」。

大牟田市は岩屋先生の地元でもあります。「生まれ育った地域の患者さんが元気に安心して暮らせるように、地域の健康づくりへの責任を感じます。現在、市の人口11万人に対して糖尿病専門医は5人と不足しており、後進の育成も含め取り組んでいきたいです」と、その思いを語ってくださいました。



スタッフ一丸で地域医療に取り  
組む糖尿病チームの皆さん。

左：1933年の設立で  
現在全196床を備える。  
右：専門のフットケア指  
導士によるフットケア外  
来も整備。